

体験活動推進プロジェクト 防災キャンプ推進事業

岡山県防災キャンプ推進事業

岡山県

【事業のポイント】

- 岡山県3市町において、今後発生が予想される南海トラフ巨大地震のほか、地域がこれまで経験した、水害土砂崩れ等の大規模災害を背景に計画。
- 地域のさまざまな団体の方に協力してもらい、地域ぐるみで事業を実施。
- 参加者が実際に体験する活動を多く取り入れる。
- 周辺地域における豪雨の影響による浸水や土砂災害の影響による災害について学ぶとともに、ハザードマップの再確認や防災マップの作成を通して地域の実態を知る。
- 避難所における生活を通して地域での支え合いや助け合いの必要性について学ぶ。
- 地域の避難所を理解する
- 非常時の応急措置等を学ぶ。



ダンボールベッドづくりの様子

1. 企画

(1) 事業実施の背景

南海トラフ巨大地震予測で最大震度6強(県南部)の揺れが発生するとされている岡山県にとって防災意識の高揚に向けた取組が不可欠である。また、異常気象が近年続いている現状を見ても喫緊の課題といえる。

昨年度は、関係各課と連携することで組織づくりとプログラムの充実に努めた。自主防災組織や高校生ボランティアリーダーと連携したり、防災弱者に配慮したりユニバーサルデザインの視点を取り入れたりしたプログラムを組む等の工夫も行われた。

子どもを中心に据えた防災体験活動を行うことで、子どもたちだけでなく、地域の大人たちの防災意識も向上したことから、さらに地理的特性に応じた災害対応のノウハウを構築していくことが必要と考える。

(2) ねらい

今年度は、3市町において防災キャンプ事業を実施することにより、県内への浸透を図る。また、事業の実施に際しては、昨年度実施した内容を踏まえ、以下のように事業効果の向上と広がりを持たせたい。

災害発生時に自らの力で命を守り、地域住民が協力しながら、生き抜いていくための具体的な手法を身につけるとともに、地域住民が協力することにより、地域の絆をより強固なものにし、防災をはじめ住みやすい地域づくりを行う。

地域において想定される災害や被災時の対応について学ぶとともに、世代を超えた支え合いや助け合いを通じて、リーダーシップや役割分担の大切さを学ぶ。

また、実際の被災時と同様、不自由な生活を体験することで青少年の体験活動を促進する。

2. 事業概要

(1) 運営体制

○実施市町実行委員会

＜事業の計画・実施・普及啓発＞

- ・笠岡市(笠岡市防災キャンプ実行委員会)
- ・美作市(美作市防災キャンプ:土居小学校区防災キャンプ企画運営委員会)
- ・矢掛町(矢掛町防災キャンプ事業企画運営委員会)

(2) 開催実績

月 日	内 容
6月12日	事業日程の調整及び運営体制の検討(笠岡市)
6月24日	笠岡市防災キャンプ第1回実行委員会(内容:組織づくり、実施体制)(笠岡市)
6月30日	平成26年度第1回矢掛町防災キャンプ事業企画運営委員会(矢掛町)
7月9日	笠岡市防災キャンプ第2回実行委員会(内容:日程、役割分担、準備物について)(笠岡市)
7月18日～19日	笠岡市防災キャンプ(笠岡市)
8月20日	平成26年度第2回矢掛町防災キャンプ事業企画運営委員会(矢掛町)
9月5日	笠岡市防災キャンプ第3回実行委員会(内容:開催結果、反省)(笠岡市)
9月19日～20日	矢掛町防災キャンプ(矢掛町)
10月15日	土居小学校区防災キャンプ 第1回企画運営委員会(美作市)
10月31日	土居小学校区防災キャンプ 第2回企画運営委員会(美作市)
11月22日～23日	土居小学校区防災キャンプの開催(美作市)

3. 防災キャンプ実施概要

< 笠岡市 >

(1) 運営体制

キャンプ参加: 地域の小学生、中学生、保護者、地域住民
 運営: 保護者、地域の各種団体、行政機関

【実行委員会】

島づくり委員会、公民館、老人クラブ、自主防災組織、婦人防火クラブ、PTA
 愛育委員、民生委員、婦人会、消防団、小学校、中学校
 笠岡市教育委員会生涯学習課、笠岡市危機管理部危機管理課

(2) 実施内容

活動名: 笠岡市防災キャンプ

活動趣旨: 児童生徒が、災害発生時に自分で避難の方法を考え、避難所生活を送るうえで生き抜く力を養う。また、災害時の厳しい状況を地域住民がお互いに助け合いながら生き抜くため、地域のつながり及び地域力を強化する。

実施日: 平成26年7月18日(金)～平成26年7月19日(土)

実施場所: 白石小学校

参加範囲: 白石小学校全学年及びその保護者と地域住民

参加人数: 150人(白石小学校全学年児童13名・保護者16名・地域住民121名)

7月18日(金)

13:30	オリエンテーション	趣旨説明, 日程・プログラム説明
13:45	避難所づくり	ダンボールベッドの制作(指導:生涯学習課)
15:00	非常食の試食	非常食(乾パン)の試食
15:15	防災工作	アルミ缶飯ごう, ペットボトル皿, アルミ缶ランプの制作(指導:生涯学習課)
16:30	夕食づくり	アルミ缶飯ごうごはん, 防災カレーづくり
18:30	夕食	アルミ缶飯ごうごはん, 防災カレー
19:30	キャンプファイヤー	友情の集い, アルミ缶ランプのキャンドルナイト
21:00	就寝準備	着替え, 歯磨き等
21:30	就寝	

19日(土)

6:00	起床	着替え, 洗顔, トイレ等
6:30	ラジオ体操	
6:45	避難所片付け	ダンボールベッドの片付け
7:30	朝食	非常食(アルファ米), みそ汁, ゆで卵
9:00	防災訓練	煙道体験, 水消火器, 土のう積体験 (指導:消防本部警防課, 危機管理課)
11:00	全体の振り返り	講評, アンケート
11:30	解散	



アルミ缶飯ごうごはんづくりの様子



煙道体験の様子

＜美作市＞

(1) 運営体制

- ① 自主防災組織、防災士：防災キャンプ全般の運営
- ② 美作市消防団・美作市：防災についての学習、体験サポート(ハザードマップ、防災マップ、土のう作り)
- ③ 土居小学校PTA：防災についての学習サポート、避難所作り体験のサポート
- ④ 美作市消防本部：応急手当講習及び消火体験の指導
- ⑤ 美作市(総務課)：ハザードマップ、防災マップ学習の指導
- ⑥ 美作市(教育委員会社会教育課)：防災キャンプ全般の進行管理

(2) 実施内容

活動名：美作市防災キャンプ(土居小学校区防災キャンプ)

活動趣旨：美作市内において想定される災害や被災時の対応について学ぶとともに、世代を超えた支え合いや助け合いを通じて、リーダーシップや役割分担の大切さを学ぶ。また、実際の被災時と同様、不自由な生活を体験することで青少年の体験活動を推進する。

実施日：平成26年11月22日(土)～平成26年11月23日(日)

実施場所：土居公民館

参加範囲：美作市土居小学校区4年生から6年生及びその保護者と地域住民

参加人数：36人(土居小学校4年生から6年生児童17名・保護者6名・地域住民13名)

○11月22日(土)

- 12:00～ 集合・受付
- 12:30～ 開講式
- 14:00～ 実習①(応急手当講習、消火体験)
- 15:30～ 実習②(土のう作り体験)
- 17:00～ 実習③(区長、自主防災会会長の講話)
- 18:00～ 実習④(配給物資による夕食作り体験)
- 18:30～ 夕食・片付け
- 20:00～ 避難所作り、フリートーク



○11月23日(日)

- 6:30～ 起床・活動準備
- 7:00～ 実習⑤(朝食作り体験)
- 7:30～ 清掃活動
- 8:30～ 実習⑥(ハザードマップ、防災マップ学習)
- 9:30～ 実習⑦(被災時のルール学習、避難所作り体験)
- 11:30～ 昼食
- 12:00～ 実習⑧(避難所撤収体験)
- 13:00～ 閉講式
解散

<矢掛町>

(1) 運営体制

矢掛町(総務企画課 防災関係部局)、矢掛町教育委員会、矢掛町消防団、井原地区消防組合
西日本電信電話株式会社、日本赤十字社岡山県支部、PTA

(2) 実施内容

活動名: 矢掛町防災キャンプ

活動趣旨: 周辺地域で想定される土砂崩れ等の災害について学ぶと共に、防災マップの確認及び避難所での生活体験を実施し、万が一の災害発生に備える。

実施日: 平成26年9月19日(金)～平成26年9月20日(土)

実施場所: 美川小学校

参加範囲: 美川小学校4～6学年及びその保護者と地域住民

参加人数: 76人(美川小学校4～6学年児童30名・保護者12名・地域住民23名・学校教職員7名・行政職員4名)

9月19日(金)

16:00 集合・オリエンテーション 開会挨拶・諸注意等の説明

16:20 防災マップ確認 防災マップを確認し、意見交換を実施

17:00 体験実習 災害が発生した際の心構え等の講話

簡易担架作成法、応急処置等の実習 (講師: 井原消防署矢掛出張所員)

18:30 夕食 非常食を食べる。

19:00 ふれあいサロン作成(4年) 体育館の中に異年齢間での交流が出来るスペースを作成する。

防災グッズ作成(5年・6年) 防災グッズ(非常用ろうそく)を作成する。

20:00 避難所設営体験 避難所での個別スペースの重要性を学んだ後、各班でダンボール・ガムテープを使用し就寝スペースを作成する。

22:00 就寝

9月20日(土)

6:30 起床 各自起床・身支度 就寝スペース・毛布の片付け

7:00 朝食 火おこし体験をし、非常食を食べる。

8:00 体験実習 災害用伝言ダイヤルの体験(講師: 西日本電信電話株式会社職員)

9:00 体験実習 AEDを使用した救命処置等を学ぶ。(講師: 日本赤十字社職員)

11:00 昼食 炊き出し体験(カレーライス)

11:30 まとめ

11:40 閉会 閉会挨拶



簡易担架作り



ふれあいサロン作成



災害用伝言ダイヤル体験



防災グッズ(灯り)作り



避難所設営体験



救命措置(AED使用)体験

4. 普及啓発の実施概要

- 岡山県
防災キャンプの様子を掲載したリーフレットを作成し、県下防災担当課、教育委員会、小学校、公民館等へ配付した。
- 笠岡市
市広報誌、笠岡市ホームページにて取組を紹介した。
- 美作市
地元・地方新聞にて取組を紹介したり、学校において防災キャンプ体験の発表を行った。
- 矢掛町
町広報誌、地方新聞、地元ケーブルテレビにて取組を紹介した。

5. 成果と課題

(1) 事業成果

- 地域の多くの各種団体に事業へ参画してもらうことができ、子どもと地域の大人が協力して活動を行うことによって、つながりが深まった。
- それぞれの活動を通じ、参加者が防災に対する意識や知識を深めることができた。
- 見るだけでなく実際に体験することにより、参加者が避難所生活の難しさ、大変さを改めて感じる事ができた。
- 地域の高齢化が進む中で、子どもたちの地域に協力する意識が高まった。
- 過去、水害で被災した経験がある地域であり、学校と地域の防災について、参加者一人ひとりの意識が非常に高く、子ども達が自分たちで避難所を運営するという意識を持ち、防災キャンプを実施することができた。
- 過去の被災した経験をもとに、非常食だけの生活体験や、さまざまな地域の方が避難してくるという想定のもと、老若男女それぞれの視点、相手の立場に立って考えることの重要性を、防災キャンプの各実習を通じて参加者が理解することができた。
- 知識の学習だけでなく、実習体験や被災体験の話や当時の写真を見ることで、防災への想像力の大切さや現場での自主的な行動の必要性を感じる事ができた。
- 防災マップの確認や、簡易担架作成など、多様な体験学習を行うことで、参加者が町内で想定される土砂崩れ等の災害や、被災時の対応の理解を深めることに貢献することができた。
- 実施したアンケートには「災害への備えをしていきたい」「家族で話し合う機会を設けようと思う」という意見があり、参加者の防災意識の高揚にも寄与できた。
- 今回の防災キャンプでは、小学生とともに、保護者、地域住民が多数参加しており、各プログラムを異なる世代で行うことで、災害発生時に重要な地域での相互扶助の意識が芽生えたことも、成果としてあげられる。

(2) 事業運営上の課題・留意点

- 参加者自らが避難所生活における課題を見つけ、解決策を考える事業プログラムを組むことが今後の課題である。
- 今回参加できていない子どもに対しても、過去の被災体験について、参加者同様に伝え、記憶を形骸化させないようにしなければならない。
- 子どもが主体の事業ではあるが、地域づくりのヒントになる事業であるため、できるだけ保護者や地域住民など大人の参加も促すこと。
- 参加していない地域住民への防災教育・啓発をどのように行っていくか。

(3) その他

平成27年度は、3市町が実施を希望している。3市町とも、平成25年度・平成26年度とも実施した市町であり、経験を活かし、より多くの地域住民が参加できるような内容となるよう、工夫して実施したいと考えている。

6. 団体プロフィール

岡山県教育庁生涯学習課
〒700-8570 岡山県岡山市北区内山下2-4-6
TEL:086-226-7595
FAX:086-224-2035

白石小学校(児童数:13名)
白石中学校(生徒数:8名)
白石島(人口:566名)



左:白石小学校 右:白石中学校

美作市立土居小学校

土居小学校は、京阪神と美作・山陰を結ぶ出雲街道沿いに位置しています。

児童数 男子41名 女子39名 合計80名(平成27年1月7日現在)

所在地 〒709-4244 岡山県美作市土居203番地
電話 0868-75-0131

矢掛町立美川小学校

〒714-1204 小田郡矢掛町下高末2686
TEL:0866-82-0836